

# Corpus driven による文法記述の試み

## —会話コーパスに現れる理由を表す従属節について—

秋廣 尚恵

(東京外国語大学)

「因果関係」を表す接続詞には、*car*, *comme*, *parce que*, *puisque* があるが、本発表では、とりわけ、話し言葉に現れる *parce que* の問題について *car* と比較しつつ考える。

*Parce que* については、これまで実に様々な先行研究が存在する。伝統的な研究では、既に、様々な統語的テストを用いて、主節に統語的に支配を受ける「従属接続詞」の *parce que* と、主節から統語的な支配を受けない「談話的コネクター」としての *parce que* の2種類を分類している。

また、最近の研究では、主節と *parce que* 節の結びつきがなす個々の発話が持つ意味的な特徴を認知言語学的な観点から分析した研究が多く見られる。*parce que* の多義性を、客観的な意味から（間）主観的な意味に至るまでしだいに用法を広げてきた結果だと考え、「因果関係」の派生的な意味の広がりという点から説明している点で、これらの研究は一理論的な基盤の差はあるにせよ一ある程度一致した見解に辿り着いているように思われる。

一方、話し言葉、とりわけインフォーマルな会話に現れる *parce que* を見るならば、文法書に現れるような「Q節+*parce que*+P節」といった節と節が結びついた形式だけではなく、他の様々な形式で表れることが観察される。例えば、先行する要素が節の形をとっていなかったり、さらには、先行する要素が全く言語化されていなかったりする場合がある。また、*parce que* に後続する要素についても、節の形をとらず、独立した発話の形を取っている例があったり、後続する節すら存在しなかったりする場合がある。先行する要素、そして後続する要素が持つ韻律的特徴、また両者の間におかれるポーズなども考慮するならば、形式面でも、非常にバラエティに富んだ結びつきを構成していることが分かる。こうした例については、最近、Débaisieux (2013) や飯田 (2013) などで、一般的な「非従属節化 (Insubordination)」の現象の一つとして扱われ始めたものの、まだ、あまり研究が進められていないのが現状である。こうした *parce que* は、「因果関係」の表現形式であるに留まらず、談話の中で何らかの特有な発話機能を果たしている可能性がある。本研究では、こうした例を具体的に挙げつつ、*parce que* が談話文法の中で果たす役割について掘り下げて考えてみたい。

コーパス言語学のアプローチには、コーパス基盤型 (corpus-based) とコーパス駆動型 (corpus-driven) の方法がある。今回は、コーパス駆動型の方法によって調査をする

ことで、フランス語の中にも、ある固有のレジスターにおいては、従属節の非従属節化（インフォーマルな話し言葉の *parce que*）、及び等位節の従属節化（知識人階級の話言葉、書き言葉に観察される *car* の従属的用法）の例が存在することを観察する。その意味で、本研究は、コーパス駆動型による文法記述のケーススタディとして位置づけることが出来る。また、これまで規範文法では自明の理とされていた等位節と従属節の区別が、固有の慣用の中では、非常にあいまいなものになりえるということを示しながら、「文」や「節」という言語単位の定義に関わるテーマについても改めて考え直してみたいと思う。

参考文献：

- Biber, Douglas & al. 1999 *Longman Grammar of the Spoken and Written English*, Harlow, Peeterson education ESL.
- Biber, Douglas & Conrad, Susan 2009 *Register, Genre and Style*, Cambridge, Cambridge University Press.
- Blanche-Benveniste, Claire & al. 2000 *Choix de textes de français parlé, 36 extraits*, Paris: Honoré Champion.
- Blasco-Dulbecco, Mylène & Capeau, Paul 2012 “Identifier et caractériser un genre : l'exemple des interviews politiques”, *Langages* 187 : 27-40.
- Débaisieux, Jeanne-Marie (dir.) 2013 *Analyse linguistiques sur corpus, subordination et insubordination*, Paris: Lavoisier.
- Degan, Lisbeth & Fagard, Benjamin 2008 “(Inter)subjectification des connecteurs, le cas de *car* et *parce que*”, *Revista de Estudos Linguisticos da Universidade de Porto vol.3* : 119-136.
- Evans, Nicolas 2007 “Insubordination and its uses”, in : Nikolaeva, I. (ed.), *Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations*, Oxford University Press, New York : 366-431.
- Grevisse, Maurice & Goose, André 2011, *Le Bon Usage*, 15e edition, Auflage, Duculot.
- Groupe λ-1. 1975 “Car, parce que, puisque”, *Revue Romaine* 10 : 248-280.
- Martin, Robert et al. 2011 *Grammaire méthodique du français*, Paris, PUF.
- Moeschler, Jacques 1986 “Connecteurs pragmatiques, lois de discours et stratégies interprétatives : parce que et la justification interprétative”, *Cahiers de Linguistique* 7, Université de Genève : 149-167.
- Moeschler, Jacques 1987 “Trois emplois de *parce que* en conversation”, *Cahiers de linguistique française* 8, Université de Genève : 97-110.
- Moeschler, Jacques 2003 “L'expression de la causalité en français”, *Cahiers de Linguistique française* 25, Université de Genève : 11-42.
- Moeschler, Jacques 2009 “Causalité et argumentation : l'exemple de *parce que*”, *Nouveaux*

*Cahiers de linguistique française* 29, Université de Genève : 97-110.

Moeschler, Jacques 2011 “Causalité, chaînes causales et argumentation”, (in) Corminboef, G. ; Béguelin, M.-J.(dir.). *Du système linguistique aux actions langagères, Mélanges en l'honneur d'Alain Berrendonner*, Bruxelles, Duculot : 339-355.

Sweetser, Eva. E. (1990). *From etymology to pragmatics metaphorical and cultural aspects of semantic structure*, Cambridge, Cambridge University Press.

Traugott, Elisabeth, Closs 2003 “From subjectification to intersubjectification”, (in) R. Hickey (ed.) *Motives for language change*, Cambridge, Cambridge University Press : 124-139.

飯田理恵子 2013『フランス語の話し言葉における従属接続詞 *parce que*の機能的拡張—日本語の「カラ」との比較を通じて』修士論文 名古屋大学 国際言語文化研究科  
日本語文化専攻